

会員数	37,273	(前月比) + 81
郵送	8,823	(前月比) - 21
手配り	26,058	(前月比) + 432
協同基金到達額	2,545,576,000円(6/30現在) [前月比 14,096,000減]	
協同基金出資者数	12,789名(6/30現在)	
いのちを守る助け合い募金額	12,000円(6/1~30)	



「私の自由について」上映会風景

## 平和フェスタ

# SEALDsの半年を追ったドキュメンタリーを鑑賞

6月29日、みみはらホールにて映画「私の自由について」の上映会が行なわれ、健康友の会のみならず、市民運動に参加している若者たち、職員、映画のホームページを見た子どもに誘われてきた方など、約70人が参加しました。

映画は西原孝至監督による、憲法と民主主義を踏みじり、安法案を成立させようとする政府への抗議のために立ち上がった若者グループ「SEALDs」

の半年を追ったドキュメンタリーで、メンバーの日常とインタビュー、そして安法案への抗議活動の様子が構成。クライマックスは12万人を集めた国会前抗議。歩道の鉄柵が決壊し、車道に溢れ出た人たちがSEALDsを先頭に国会正門前に陣取り「憲法壊すな」の声をあげる。

何度かメンバーの奥田愛基さんをデモで見かけたことがありますが、華奢で小柄で普通におしゃれな若者です。そんな普通の若者たちが、ギリギリのところで踏ん張って渾身の抗議の声をあげています。その光景は「あきらめるな」と私たちの背中を押してくれていました。

そして、映画の終了後は都構想の市民投票で、橋下維新と真つ向対決した市民団体のスピーチとコール、また、参加者による「わたしたちができること」をテーマにした意見交換で、「選挙に行つて政治を変えよう」の機運を高めました。

(耳原総合病院・医事課  
阪口 政雄)

同仁会と健康友の会みみはらは、平和を願い、平和を守るためのとりくみを共同で行なっています。今年の夏のとりくみを紹介します。

# 夏 平和への想い、決意、あらたに

## 国民平和大行進

# 猛暑の中を怒りこめ



猛暑の中行進

今年も暑い夏がやって来ました。7月3日、前日からの猛暑が続く中、国民平和大行進に参加しました。和泉市方面からのバトンを受けついで、浜寺公園で集会を行い、そのあと堺東までデモ行進をしました。

参議院選挙戦まったた中で平和行進なので、参加者数の心配もありましたが、約250人の参加で盛り上がりました。

東日本大震災の原発事故の後始末も進展していません。

も原発はいりません。私たちの、平和を望む純粋な気持ちを、どこにぶつければいいのか。そんな思いを込めて、日本に原発はいらない、広島や、長崎をくり返してはいけません。「ノーモア、広島」「ノーモア、長崎」と声を張り上げ、もって行き場のない気持ちを炎天に向かって、声を張り上げました。

(ふくいすみ支部  
江戸 道子)

浜寺公園での集会風景

17世紀まで自由都市として栄えたドイツ・ローテンブルク、その旧市街地は中世の美しい景観を今も残しています。しかし、この街にも第二次世界大戦での危機が：▼1945年ドイツの敗色が濃く、米軍はこの街への砲撃を計画していたが、或る高官が中止させます。高官の幼い頃、部屋にこの街の絵画が飾られ、母からこの中世都市のすばらしさを聞かされていたからです▼米軍部隊は「街の降伏」と「砲撃中止」を交換条件として提案。ドイツ軍守備隊長は、ヒトラーの「全ての街は最後まで戦え」との命令を無視し「降伏」を選択。これにより、文化遺産都市ロテンブルクは破壊を免れました。ドイツが降伏する3週間前のことですが▼日本はドイツ降伏の約1ヵ月後の6月8日「太平洋戦争の続行」を決定しました。本土決戦の「捨て石」とされた沖繩では熾烈な地上戦により、緑豊かな風景が、そして貴重な文化遺産が破壊され、死者20数万人、3人に1人が犠牲という惨事を招きました▼「戦争は無差別に破壊し尽くす、すべての命を、生活を、文化を、歴史を、自然を」とつたう非核・平和沖繩県宣言は、さらに「武器に代えて対話を」と呼びかけます。今の時期大変に重い言葉です。

(八田兄一)

## 聴診器